

5. 教育活動

5.1 教育活動への関わり

防災研究所における教育活動は、学内における教育活動と学外における教育活動に大別される。

学内における教育活動には、卒論生・修士学生・博士学生の学位論文研究に対する研究指導，並びに本学学部，研究科などで分担する科目の講義が含まれる。なお，この他受け入れ研究生・研修員の指導等も含まれる。

学外における教育活動としては，他大学・大学院における非常勤講師としての講義の他に，一般人を対象とした講演や講義等も含まれる。

大学における教育活動は，研究活動と両輪をなし，両者は密接不可分のものである。このことは，研究科に比較して研究により重点のある研究所においても例外ではないが，研究活動との兼ね合いをどの程度にするかは検討課題である。

5.2 大学院教育

防災研究所の各研究分野・領域は、理学研究科地球惑星科学専攻、工学研究科社会基盤工学専攻、同都市社会工学専攻、同都市環境工学専攻、および同建築学専攻、情報学研究科社会情報学専攻、地球環境学堂の協力講座として、大学院教育に携わっており、教授・助教授はそのほとんど全てが何らかの講義を担当している。ただし、大学院の講義を担当している助教は少ない。

現在、防災研究所の教員が担当している大学院担当講義科目および担当教員名を表 5.2.1 に示す。

表 5.2.2 には、他大学院における講義名と担当教員を示す。非常勤講師として講義を担当しているのは、平成 17～19 年度において 12 大学院 9 名である。平成 14～16 年度では 14 大学院 14 名であったので、幾分減少気味であるが、これには、大学法人化以後、各大学で予算の制約の関係から非常勤講師の数を減らす傾向が一般的に見られることが関係しているかも知れない。

平成 17-19 年度の期間に防災研究所で受け入れ、防災研究所の教員に研究および論文執筆の指導を受けた博士課程および修士課程の大学院生の数を、それぞれ、表 5.2.3 および表 5.2.4 に示す。

博士課程の学生は、毎年度 70 名以上である。一方、修士課程は 125 名前後の学生が研究指導を受けている。分野・領域当たり平均すると博士課程では約 2 名、修士課程で約 3 名となる。博士課程 3 年、修士課程 2 年であるから、学年当たりでは、それぞれ 0.7 人、1.5 人となる。博士課程の学生数の合計は平成 14～16 年度の調査に比して増減は殆どない。しかし、内訳をみると、留学生の数は大きく変わらないものの、社会人学生が大幅に増加し、その分、日本人の過程博士学生の数が確実に減少している。これは、博士課程在学中の経済的な問題とともに、学位取得後の研究職常勤ポストが限られていることによる研究者としての身分が不安定であることなどが原因であると考えられる。民間企業による博士修了者の積極的採用を依頼するなど、博士課程修了後の就

職先の確保のための積極的取り組みが模索されるべきであろう。

表 5.2.5 は、防災研の教員が係った学位論文の一覧をまとめたものである。防災研究所に所属する博士課程大学院生の学位取得件数は、平成 17 年度 14 件、18 年度 19 件、19 年度 21 件で、3 年間の合計で 54 となっている。この他に、防災研教官が学位審査の主査をつとめた論文博士が 3 年間の合計で 16 件ある。両者の合計では 70 件であるが、前回の平成 14～16 年度は 71 件であったので、ほぼ横ばいの状況と見られる。

また、修士の学位授与に関しては表 5.2.6 に示すとおり毎年約 60 人前後で推移した。これは、前回の平成 14～16 年度に比較し、年間 10 人程度の増加である。一方、この期間の修士課程修了者の就職先は表 5.2.7 に示すように、研究関係への就職は 11 名で 7% ほどであるが、これも殆ど全て民間の研究所などへの就職と見られる。以前と異なり、修士卒で大学や公的研究機関の研究職への就職は殆ど不可能となってしまっている。

近年、科学技術庁特別研究員、他大学 COE 研究員など期限付き研究職に就く者も増えてきたが、社会全体として常勤ポストが限られている現在、博士課程修了者の身分は依然として不安定な状況である。

表 5.2.1 大学院担当講義課目一覧

【社会防災研究部門】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
川瀬 博・教授	工学研究科・建築学専攻	都市防災工学	修士課程
		建築学特別演習Ⅰ，Ⅱ	修士課程
		建築学総合演習Ⅰ	修士課程
		先端建築学特論Ⅱ	博士課程
		建築構造学セミナーⅠ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ	博士課程
田中哮義・教授	工学研究科・都市環境工学専攻	都市火災安全計画論	修士課程
		都市環境工学演習A,B	修士課程
		都市環境工学特別セミナーF	博士課程
寶 馨・教授	工学研究科・都市環境工学専攻	水防災情報工学	修士課程
		水文気象防災学	修士課程
		都市環境工学論	修士課程
		都市環境工学セミナー	修士課程
		都市環境工学特別セミナー	博士課程
佐山敬洋・助教	工学研究科・都市環境工学専攻	都市環境工学セミナー	修士課程
多々納裕一・教授	情報学研究科・社会情報学専攻	防災情報特論	修士課程
		社会情報学特殊研究 1, 2	修士課程
		情報システム分析論	修士課程
		防災情報学セミナー1	修士課程
	京都サスナビリティ・イニシアチブ・大学院地球環境学舎 経営管理大学院	防災経済学 リスクマネジメント	学舎院生 修士課程
畑山満則・准教授	情報学研究科・社会情報学専攻	防災情報特論	修士課程
【巨大災害研究センター】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
河田恵昭・教授 矢守克也・准教授 鈴木進吾・助教	情報学研究科・社会情報学専攻	危機管理特論	修士課程・後期
河田恵昭・教授	情報学研究科・社会情報学専攻	防災情報学セミナー2	修士課程
林春男・教授 牧紀男・准教授 鈴木進吾・助教	情報学研究科・社会情報学専攻	防災情報特論	修士課程・前期
	経営管理大学院	危機管理論	修士課程・後期
林春男・教授	情報学研究科・社会情報学専攻	防災情報学セミナー3	修士課程
	工学研究科・都市社会工学専攻	リスクマネジメント論	修士課程・後期
		キャップストーン・プロジェクト 都市社会計画総合セミナー	修士課程・通年 修士課程・前期
岡田憲夫・教授 河田恵昭・教授 林春男・教授 矢守克也・准教授 牧紀男・准教授 鈴木進吾・助教	経営管理大学院	リスクマネジメント	修士課程・通年
	情報学研究科・社会情報学専攻	社会情報学特殊研究 1, 2	修士課程
		社会情報学特別セミナー	博士後期課程
		地域・防災情報システム学特別セミナー	博士後期課程
【地震災害研究部門】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
田中仁史・教授	工学研究科・建築学専攻	コンクリート系構造特論	修士課程
		耐震構造特論	修士課程
	工学研究科・都市環境工学専攻	鉄筋コンクリート構造物の性能評価型設計法	修士課程

岩田知孝・教授 松波孝治・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	応用地震学 A,B	修士課程
岩田知孝・教授 松波孝治・准教授 浅野公之・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	応用地震学ゼミナール A,B,C,D	修士課程
澤田純男・教授	工学研究科・都市社会工学専攻	ライフマネジメント工学	修士課程
澤田純男・教授 高橋良和・准教授	工学研究科・都市社会工学専攻	サイスマックシミュレーション演習	修士課程
田村修次・准教授	工学研究科・建築学専攻	建築基礎構造設計・施工論	修士課程
田中仁史・教授 田村修次・准教授	工学研究科・都市環境工学専攻	都市環境工学特別セミナーE	修士課程
田村修次・准教授	工学研究科・都市環境工学専攻	地盤環境工学	修士課程
岩田知孝・教授 松波孝治・准教授 浅野公之・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	応用地震学ゼミナール	博士課程
【地震防災研究部門】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
MORI, James Jiro・教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	固体地球物理学ⅡA	修士課程・前期
		活地球固体圏特論A	修士課程・前期
大見士朗・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	地震発生機構論B	修士課程・後期
MORI, James Jiro・教授 大見士朗・准教授 宮澤理稔・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	地震発生機構論	修士課程
大志万直人・教授	理学研究科・	応用地球電磁気学 A,B	修士課程
大志万直人・教授 吉村令慧・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	応用地球電磁気学ゼミナール A,B,C,D	修士課程
MORI, James Jiro・教授 大見士朗・准教授 宮澤理稔・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	地震発生機構論ゼミナール	博士課程
大志万直人・教授 吉村令慧・助教	理学研究科・	応用地球電磁気学ゼミナール	博士課程
中島正愛・教授 日高桃子・准教授	工学研究科・建築学専攻	構造安全制御	修士課程
		建築学総合演習Ⅰ	修士課程
		建築学特別演習Ⅰ,Ⅱ	修士課程
		建築構造学セミナーⅠ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ	博士課程
中島正愛・教授	工学研究科・建築学専攻	先端建築学特論Ⅱ	博士課程
【地震予知研究センター】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
飯尾能久・教授 片尾浩・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	地震発生機構論A	修士課程・前期
		地震発生機構論B	修士課程・後期
柳谷俊・准教授 渋谷拓郎・准教授 竹内文朗・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	地震テクトニクスA	修士課程・前期
		地震テクトニクスB	修士課程・後期
西上欽也・教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	地震発生機構論	修士課程
橋本学・教授 川崎一郎・教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	地殻変動論 A,B	修士課程
川崎一郎・教授 飯尾能久・教授 柳谷俊・准教授 片尾浩・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	地震発生機構論ゼミナール A,B,C,D	修士課程

橋本学・教授 西上欽也・教授 澁谷拓郎・准教授 竹内文朗・准教授 許斐直・助教 福島洋・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	地震テクトニクスゼミナール A,B,C,D	修士課程
橋本学・教授 川崎一郎・教授 大谷文夫・助教 森井互・助教 徐培亮・助教 寺石真弘・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	地殻変動論ゼミナール A,B,C,D	修士課程
川崎一郎・教授 加納靖之・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	地球惑星内部ダイナミクスゼミナール A,B,C,D	修士課程
川崎一郎・教授 飯尾能久・教授 柳谷俊・准教授 片尾浩・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	地震発生機構論ゼミナール	博士課程
橋本学・教授 西上欽也・教授 澁谷拓郎・准教授 竹内文朗・准教授 許斐直・助教 福島洋・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	地震テクトニクスゼミナール	博士課程
橋本学・教授 川崎一郎・教授 大谷文夫・助教 森井互・助教 徐培亮・助教 寺石真弘・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	地殻変動論ゼミナール	博士課程
川崎一郎・教授 加納靖之・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	地球惑星内部ダイナミクスゼミナール	博士課程
【火山活動研究センター】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
石原和弘・教授 井口正人・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	環境地球科学Ⅱ A,B	修士課程
センター教員全員	理学研究科・地球惑星科学専攻	環境地球科学ゼミナールⅡ A,B,C,D	修士課程
		環境地球科学ゼミナールⅡ	博士課程
神田径・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	応用地球電磁気学ゼミナール A,B,C,D	修士課程
【地盤災害研究部門】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
千木良雅弘・教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	環境地球科学ⅢA・ⅢB	修士課程
		災害地質学	修士課程
千木良雅弘・教授 SIDLE, Roy C.・教授 諏訪浩・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	環境地球科学ゼミナール ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD	修士課程
		環境地球科学ゼミナールⅢ	博士課程
SIDLE, Roy C.・教授 諏訪浩・准教授 寺嶋智巳・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	水圏地球物理学ⅡA・ⅡB	修士課程
SIDLE, Roy C.・教授 諏訪浩・准教授 寺嶋智巳・准教授 齊藤隆志・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	水圏地球物理学ゼミナールⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD	修士課程
		水圏地球物理学ゼミナールⅢ	博士課程
井合進・教授 三村衛・准教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	地盤工学セミナー	修士課程
		水際地盤学	修士課程
		地球数理解析	修士課程

【斜面災害研究センター】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
末峯 章・准教授 福岡 浩・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	環境地球科学Ⅰ A,B	修士課程
釜井俊孝・教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	環境地球科学Ⅲ A,B	修士課程
釜井俊孝・教授 末峯 章・准教授 福岡 浩・准教授 汪 発武・助教 王 功輝・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	環境地球科学ゼミナールⅠ A, B, C, D	修士課程
		環境地球科学ゼミナールⅠ	博士課程
【気象・水象災害研究部門】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
向川 均・教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	応用気象学Ⅰ A,B	修士課程
向川 均・教授 井口敬雄・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	応用気象学ゼミナールⅠ A,B,C,D	修士課程
		応用気象学ゼミナールⅠ	博士課程
石川裕彦・教授 竹見哲也・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	応用気象学Ⅱ A,B	修士課程
石川裕彦・教授 竹見哲也・准教授 堀口光章・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	応用気象学ゼミナールⅡ A,B,C,D	修士課程
石川裕彦・教授 竹見哲也・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	応用気象学ゼミナールⅡ	博士課程
河井宏允・教授	工学研究科・建築学専攻	先端建築学特論Ⅱ	博士課程・後期
河井宏允・教授 丸山 敬・准教授	工学研究科・建築学専攻	風環境工学	修士課程・後期
		建築学特別演習Ⅰ	修士課程・前・後期
		建築学特別演習Ⅱ	修士課程・前・後期
		建築構造学セミナーⅡ	修士課程・前・後期
		建築構造学セミナーⅢ	修士課程・前・後期
河井宏允・教授	工学研究科・建築学専攻	先端建築学特論Ⅱ	博士課程・後期
間瀬 肇・教授 森 信人・准教授	工学研究科・都市環境工学専攻	沿岸・都市防災工学	修士課程・後期
間瀬 肇・教授 安田誠宏・助教	工学研究科・都市環境工学専攻	沿岸域防災工学	修士課程・後期
間瀬 肇・教授	工学研究科・都市環境工学専攻	海岸波動論	修士課程・後期
		都市環境工学セミナーA	修士課程・前期
		都市環境工学特別セミナーA	博士課程・前期
		都市環境工学論	修士課程・前期
中北英一・教授 城戸由能・准教授	工学研究科・都市社会工学専攻	水文気象防災学	修士課程・前期
	工学研究科・都市社会工学専攻	都市社会情報論	修士課程・前期
		自主企画プロジェクト	修士課程・通年
		キャップストーンプロジェクト	修士課程・通年
		都市社会工学セミナーA,B	修士課程・通年
		都市社会工学総合セミナーA,B	博士課程・前・後期
社会基盤マネジメント総合セミナー A,B	博士課程・前・後期		
【流域災害研究センター】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
川池健司・准教授 竹林洋史・准教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	地球数理解析	修士課程
藤田正治・教授 武藤裕則・准教授 堤大三・准教授	工学研究科・ 社会基盤工学専攻 都市環境工学専攻	流域環境防災学	修士課程

藤田正治・教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	水工学セミナー	修士課程
中川一・教授 竹林洋史・准教授 川池健司・准教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	流域治水砂防学	修士課程
関口秀雄・教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	水際地盤学	修士課程
戸田圭一・教授 米山 望・准教授	工学研究科・都市社会工学専攻	キャップストーンプロジェクト	修士課程
		都市社会情報論	修士課程・前期
		沿岸・都市防災工学	修士課程・後期
林 泰一・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	水圏地球物理学ゼミナールⅡ A,B,C,D	修士課程・前・後期
		応用気象学ゼミナールⅡ A,B,C,D	修士課程・前・後期
		応用気象学Ⅱ A,B	修士課程・前・後期
		多階層地球変動科学実習	修士課程・集中
中川一・教授 藤田正治・教授 川池健司・准教授 堤大三・准教授 武藤裕則・准教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	社会基盤工学総合セミナーBⅠ,BⅡ	博士課程
関口秀雄・教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	社会基盤工学総合セミナーCⅠ	博士課程
戸田圭一・教授 米山 望・准教授	工学研究科・都市社会工学専攻	社会基盤マネジメント総合セミナー	博士課程・前期
		都市社会工学総合セミナー A,B	博士課程・前・後期
林 泰一・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	水圏地球物理学ゼミナールⅡ	博士課程
		応用気象学ゼミナールⅡ	博士課程
【水資源環境研究センター】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
小尻利治・教授 田中賢治・准教授 浜口俊雄・助教	工学研究科・都市社会工学専攻	都市社会情報論	修士課程・前期
萩原良巳・教授	工学研究科・都市環境工学専攻	社会環境防災計画学	修士課程・前期
小尻利治・教授 堀 智晴・教授 田中賢治・准教授	工学研究科・ 都市社会工学専攻 都市環境工学専攻	水資源システム論	修士課程・前期
小尻利治・教授 田中賢治・准教授 浜口俊雄・助教	工学研究科・都市社会工学専攻	キャップストーンプロジェクト	修士課程・通年
		自主企画プロジェクト	
		都市社会工学セミナー	
小尻利治・教授 田中賢治・准教授	工学研究科・都市社会工学専攻	社会基盤マネジメント総合セミナー A	博士課程・前期
小尻利治・教授 田中賢治・准教授	工学研究科・都市社会工学専攻	社会基盤マネジメント総合セミナー B	博士課程・後期
堀 智晴・教授 萩原良巳・教授 竹門康弘・准教授	工学研究科・都市環境工学専攻	都市環境工学論	修士課程・前期
		都市環境工学セミナーA,B	修士課程
		都市環境工学演習 A,B	修士課程
		都市環境工学特別セミナーA	博士課程・前期

表 5.2.2 他大学大学院での担当講義科目一覧

分野・領域	氏名	職	大学名	研究科名	年度	講義科目名
巨大災害過程	矢守克也	助教授	久留米大学大学院	心理学研究科	17	人間行動心理学特講
			茨城大学大学院	人文科学研究科	18	社会行動論研究Ⅱ
強震動分野	松波孝治	准教授	滋賀県立大学	環境科学科	17,18	地盤振動特論
地殻活動	川崎一朗	教授	北海道大学	理学研究院	19	自然史科学特別講義Ⅰ
山地災害	千木良雅弘	教授	広島大学	理学研究科	18	斜面表層の地質学
			大阪市立大学	理学研究科	18	環境地球学特別講義Ⅱ (災害地質学)
	諏訪 浩	准教授	筑波大学	生命環境科学研究科	17	地形学特別講義(集中)
			新潟大学	自然科学研究科	18	災害科学特別講義(集中)
傾斜地保全	SIDLE, Roy C.	教授	筑波大学	生命環境科学研究科	17-19	地球環境科学特論(集中)
			千葉大学	理学研究科	19	水文学特別講義(集中)
災害気候	向川 均	教授	北海道大学	地球環境科学研究院	17	地球圏科学特別講義Ⅲ
暴風雨気象環境	石川裕彦	教授	岡山大学	理学研究科	17	数値モデルによる気象研究法
気象学	林 泰一	准教授	高知大学	理学研究科	17	気象災害の発生および実態解明

表 5.2.3 大学院在籍者数（博士課程）

部門・センター名	領域・分野名	17年度				18年度				19年度			
		社会人	留学生	左記以外	全体	社会人	留学生	左記以外	全体	社会人	留学生	左記以外	全体
社会防災研究部門	都市空間安全制御	2	2	4	8	2	2	3	7	1	1	2	4
	都市防災計画	2	0	0	2	2	0	0	2	1	0	0	1
	防災技術政策	2	0	7	9	2	0	7	9	2	0	7	9
	防災社会システム	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1
巨大災害研究センター	巨大災害過程	1	0	3	4	1	0	2	3	1	0	2	3
	災害情報システム	1	0	1	2	2	0	1	3	2	1	2	5
	災害リスクマネジメント	0	6	1	7	0	8	1	9	0	9	0	9
地震災害研究部門	強震動	0	0	2	2	0	0	3	3	0	0	2	2
	耐震基礎	1	0	1	2	2	0	1	3	2	0	0	2
	構造物震害	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	2	2
地震防災研究部門	耐震機構	0	2	1	3	2	3	2	7	2	3	2	7
	地震テクトニクス	0	0	4	4	0	0	3	3	0	0	2	2
	地震発生機構	0	1	0	1	0	2	0	2	0	1	0	1
地震予知研究センター	(6領域合計)	0	0	1	1	0	1	1	2	0	0	1	1
火山活動研究センター	火山噴火予知	0	0	3	3	0	0	3	3	0	0	2	2
地盤災害研究部門	地盤防災解析	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	1	3
	山地災害環境	0	0	2	2	0	0	3	3	0	0	3	3
	傾斜地保全	0	0	0	0	0	2	0	2	0	2	0	2
斜面災害研究センター	(2領域合計)	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1
気象・水象災害研究部門	災害気候	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	暴風雨・気象環境	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	耐風構造	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	沿岸災害	0	2	0	2	0	2	0	2	0	0	0	0
	水文気象災害	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	2	3
流域災害研究センター	流砂災害	0	1	0	1	1	2	0	3	1	2	0	3
	河川防災システム	0	4	0	4	0	5	0	5	0	4	0	4
	都市耐水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	沿岸域土砂環境	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
	流域圏観測	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1
水資源環境研究センター	地球水動態	0	0	2	2	0	0	1	1	0	0	0	0
	地域水環境システム	0	1	1	2	1	2	0	3	1	2	0	3
	社会・生態環境	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合 計		9	21	38	68	16	30	36	82	14	30	32	76

表 5.2.4 大学院在籍者数（修士課程）

部門・センター名	領域・分野名	17年度	18年度	19年度
社会防災研究部門	都市空間安全制御	4	3	2
	都市防災計画	3	4	4
	防災技術政策	6	4	4
	防災社会システム	4	4	6
巨大災害研究センター	巨大災害過程	2	1	3
	災害情報システム	1	4	5
	災害リスクマネジメント	2	2	5
地震災害研究部門	強震動	1	2	2
	耐震基礎	7	6	3
	構造物震害	3	4	5
地震防災研究部門	耐震機構	7	8	8
	地震テクトニクス	3	4	2
	地震発生機構	2	3	4
地震予知研究センター	（6領域合計）	12	8	5
火山活動研究センター	火山噴火予知	1	0	0
地盤災害研究部門	地盤防災解析	5	7	5
	山地災害環境	4	5	9
	傾斜地保全	3	3	1
斜面災害研究センター	（2領域合計）	4	4	3
気象・水象災害研究部門	災害気候	5	7	6
	暴風雨・気象環境	6	6	7
	耐風構造	3	1	2
	沿岸災害	5	4	3
	水文気象災害	3	5	4
流域災害研究センター	流砂災害	5	4	2
	河川防災システム	1	2	3
	都市耐水	1	2	4
	沿岸域土砂環境	2	1	1
	流域圏観測	3	4	4
水資源環境研究センター	地球水動態	7	5	2
	地域水環境システム	7	5	8
	社会・生態環境	1	1	3
合 計		123	123	125

表 5.2.5 学位論文

(1) 部門・センター在籍院生等の課程博士学位取得

年度	研究科名	氏名	論文題目	主査氏名
17	工学研究科	小林啓二	災害時におけるヘリコプタの活用方法と必要な運航支援体制の研究	田中喆義
17	工学研究科	Rochan Kumar SHRESTHA	Multiscale Transformation of Space-Time Rainfall Structure and Its Effect on Distributed Hydrological Prediction(時空間降水構造の多次元スケール変換とその分布型水文予測への影響に関する研究)	寶 馨
17	工学研究科	Nawa Raj Pradhan	Development of a Topographic Disaggregation Method for Transferring Hydrological Models across Scales and Regions	寶 馨
17	工学研究科	江 申	Hydrological Model Comparison and Refinement through Uncertainty Recognition and Quantification(水文予測の不確定さの認識と定量化による水文モデルの比較と改良)	寶 馨
18	工学研究科	Keng-Chang KUO	Loss Evaluation for Medical Functionality of Hospitals due to Earthquakes	鈴木祥之
18	工学研究科	前野将輝	寺院建築物における伝統木造軸組の構造力学特性と耐震性能	鈴木祥之
18	工学研究科	須田 達	京町家の耐震性能評価法と耐震補強設計法の構築と実大振動実験による検証	鈴木祥之
18	工学研究科	山口純一	吹抜空間を有する建築物の避難安全設計における煙流動性状計算法に関する研究	田中喆義
18	工学研究科	渡邊純一	二層環境下における天井流性状解析に基づく火災感知器作動予測手法に関する研究	田中喆義
18	工学研究科	Kim SUNMIN	Stochastic Rear-Time Flood Forecasting Using Weather Radar and a Distributed Hydrologic Model (気象レーダーと分布型流出モデルを用いた確率的実時間降水予測)	寶 馨
19	工学研究科	具 典淑	構造ヘルスマニタリング手法の構築と木造建物振動台実験による検証	鈴木祥之
19	工学研究科	向坊恭介	伝統構法木造建物の地震応答と耐震性能に関する研究	鈴木祥之
19	工学研究科	白山敦子	履歴減衰と粘性減衰を有する免・制震構造システムの地震応答と減衰効果	鈴木祥之
19	工学研究科	牧野育代	水道水源ダム貯水池の水質悪化に及ぼす特性要因の解析～ダム完成後に選択取水方式と導入した水源貯水池の水質悪化の例～	寶 馨
19	工学研究科	土屋 哲	地震リスク管理のための経済被害の計量化に関する方法論的研究	岡田 憲夫
18	情報学研究科	鈴木進吾	不確定性を考慮した津波減災システムの開発に関する研究	河田恵昭
19	情報学研究科	奥村与志弘	津波の地域性を考慮した防災戦略	河田恵昭
19	工学研究科	松田曜子	低頻度大規模災害に備えることを目的としたリスクコミュニケーション手法に関する研究	岡田憲夫
19	工学研究科	Robert Pawel Bajek	Development of Evaluation Methods for Community-Based Participatory Risk Management – with a focus on Social Earthquake Resilience	岡田憲夫
19	工学研究科	Suman Ranjan Sensarma	Modeling and Analysis of the Process of Resolving Regional Conflicts under Disaster and Development Risks: Case Studies from Japan and India	岡田憲夫
19	工学研究科	Wei Xu	Development of a Methodology for Participatory Evacuation Planning and Management: Case study of Nagata, Kobe	岡田憲夫
18	理学研究科	浅野公之	Study on Strong Motion Generation Based on Detailed Analysis of Earthquake Source Rupture Process(震源破壊過程の詳細な分析に基づく強震動生成に関する研究)	岩田知孝
18	工学研究科	後藤浩之	設計入力地震動の高精度化のための不均質地盤構造を考慮した動力学震源破壊過程の推定に関する研究	澤田純男
19	理学研究科	鈴木 亘	Estimation of Broadband Source Process Based on Strong Motion Modeling (強震記録モデリングに基づく広帯域震源過程の推定に関する研究)	岩田知孝
19	工学研究科	王 激揚	開口有無に基づく鉄筋コンクリート耐震壁の計算モデルに関する研究 The Studies on the Computing Models of the Reinforced Concrete Structural Walls with/without Openings	田中仁史

17	工学研究科	周 鋒	Seismic behavior and design of composite moment frames with conventional and innovative connections	中島正愛
17	工学研究科	松宮智央	完全崩壊に至る超大変形繰返し載荷下における建築鋼構造骨組の挙動と残存性能	中島正愛
17	理学研究科	山崎健一	Study on methods for regional geomagnetic field modeling to detect tectonomagnetic signals	大志万直人
18	工学研究科	王 濤	Development of Online Hybrid Test with Concepts of Internet Linkage and Distributed Experiments and Analyses	中島正愛
18	理学研究科	Sun-Cheon Park	Rupture Velocities of Large Deep-Focus Earthquakes Surrounding Japan and Their Implication for Source Characteristics	MORI, James Jiro
19	理学研究科	土井一生	Detailed estimation of S-wave reflection structures in the crust and uppermost mantle in the Chugoku region, southwest Japan, using waveforms of local earthquakes	西上欽也
17	地震学学科	行竹洋平	大地震の断層周辺における応力場の空間変化－断層強度の推定に向けて－	飯尾能久
18	地震学学科	上野友岳	レシーバ関数解析による西南日本の地下構造の推定と地震活動との関係	伊藤 潔
18	地震学学科	白 玲	2004年伊半島沖地震：震源再決定，震源過程，そのテクトニックな意味	川崎一朗
18	理学研究科	Sri Hidayati	Study on Volcano-tectonic Earthquakes at Sakurajima Volcano and its Surroundings	石原和弘
18	理学研究科	Sukir Maryanto	Mechanisms of Harmonic Tremors at Sakurajima Volcano, Japan	井口正人
19	理学研究科	Nurlia Sadikin	Study on Volcano-tectonic Earthquakes and Magma Supply System at Guntur Volcano, with Long-term Dormant Period	井口正人
19	理学研究科	土志田正二	航空レーザー測量データを用いた斜面崩壊地形の詳細解析	千木良雅弘
19	理学研究科	戸邊勇人	風化花崗岩類の表層崩壊と風化形式，および岩石組織との関係について	千木良雅弘
17	理学研究科	Igwe OGBONNAYA	A STUDY ON THE MECHANISM OF FLOW SLIDES USING SANDS WITH VARYING GRADING	佐々恭二
18	理学研究科	Gratchev Ivan BORISOVICH	A study on cyclic behavior of fine-grained soils in different pore fluids	佐々恭二
19	理学研究科	ジョゼフ・ユルコ (Jozef Jurko)	LIQUEFACTION BEHAVIOR AND CYCLIC RESPONSE OF NON-PLASTIC AND LOW PLASTICITY SILT-CLAY MIXTURES IN RING-SHEAR TESTS	福岡 浩
18	工学研究科	Fitri Riandini	Simulation Model for Cohesive Sediment Transport and Bottom Topography Changes in Estuary	高山知司
19	工学研究科	金 洙 (SooYoul Kim)	Effect of large tidal variation on storm surge in the western coastal sea of Korea	高山知司
17	理学研究科	木原直人	気・液界面近傍の乱流構造と輸送機構に関する数値的研究	石川裕彦
17	工学研究科	Zhang Hao	Study on Flow and Bed Evolution in Channels with Spur Dykes	中川 一
17	工学研究科	Amiruddin	The dynamics subaqueous sediment gravity flows and Redepositional processes	関口秀雄
18	工学研究科	Sharma Raj Hari	Study on Integrated Modeling of Rainfall Induced Sediment Hazards	中川 一
19	工学研究科	Muhammad Sulaiman	Study on Porosity of Sediment Mixtures and a Bed-porosity Variation Model	藤田正治
19	理学研究科	山根悠介	バングラデシュにおけるシビアローカルストームの気候学的特性と発生環境に関する研究	林 泰一
19	工学研究科	李 漢洙	Regional Disaster Events and Environment Simulations by Atmosphere-Ocean Coupled Model	関口秀雄
17	工学研究科	坂本麻衣子	水資源開発における社会的コンフリクトマネジメントに関する研究	萩原良巳
17	工学研究科	ポールJスミス	分布型流出モデルを用いた確率論的洪水流出予測に関する研究	小尻利治
18	工学研究科	相馬 一義	降水短期予報における詳細な地表面状態量の導入とその夏季の熱雷に対する影響評価	池淵周一

(2) 部門・センターの教官が主査となった論文博士授与

年度	研究科名	氏名	論文題目	授与者所属	主査氏名
18	工学研究科	渡部勇市	加圧煙制御時の発熱速度から求める臨界給気量の簡易予測法に関する研究	(独) 消防研究所	田中哮義
19	工学研究科	久次米真美子	事務所ビル火災に対する加圧給気煙制御のための設計計算法に関する研究	(株) 日建設計	田中哮義
17	情報学研究科	吉富 望	The Development of GIS-Based Response Applications for Supporting Damage Assessment and Issuing of Damage Certificates as the Basis for Life Recovery: Lessons Learned from the Practice in the 2004 Niigata Chuetsu Earthquake (GISを基盤とした被災者の早期生活再建のための罹災証明)	京都大学防災研究所	林 春男
18	情報学研究科	指田 朝久	企業のリスクマネジメントシステム構築のための人材育成プログラムの開発	東京海上日動リスクコンサルティング株式会社	林 春男
17	地震学学科	Pervukhina Marina	Correlations between electrical and elastic properties of solid-liquid systems and their geophysical applications	産業技術総合研究所	飯尾能久
17	理学研究科	田中健路	チベット高原における大気陸面相互作用に関する観測的研究	熊本大学	石川裕彦
18	工学研究科	津田宗男	衝撃波力を受けるケーソン壁の設計方法	東亜建設工業(株)	高山知司
18	工学研究科	池末俊一	非定常な自由水面波動に対する数値計算法の開発と浮体との連成運動への応用	三菱重工業(株)	高山知司
18	工学研究科	江崎慶治	ケーソン式防波堤の安定性に及ぼすロングフーチングの効果に関する研究	住友重機械工業(株)	高山知司
18	工学研究科	徳渕克正	弾性材料を使用した浮体係留システムに関する研究	シバタ工業(株)	高山知司
17	工学研究科	宮井 宏	古記録を用いた京都の冬季気温と降水量の推定に関する研究	無し	池淵周一
17	工学研究科	岡野眞久	ダム貯水池流砂技術の堆砂対策への適用に関する研究	全国建設研修センター	池淵周一
18	工学研究科	杉本聡一郎	ドップラーレーダーを主としたリモートセンシング観測値の3次元変分法によるデータ同化と短時間降水予測手法の高度化に関する研究	電力中央研究所地球工学研究所	池淵周一
18	工学研究科	橋本徳昭	山岳域の電力ダムを対象としたダム流入量予測技術の実用化に関する研究	関西電力	池淵周一
18	工学研究科	鈴木善晴	気象レーダー観測及び数値気象モデル解析を統合した山岳域における降雨-地形関係の複合スケール構造に関する研究	宇都宮大学工学部	池淵周一
19	工学研究科	佐藤祐一	河川開発と環境保全のコンフリクト存在下における代替案の評価と合意形成に関する研究	滋賀県琵琶湖環境科学センター	萩原良巳

表 5.2.6 修士課程修了者数

部門・センター名	領域・分野名	17年度	18年度	19年度
社会防災研究部門	都市空間安全制御	2	2	1
	都市防災計画	1	2	2
	防災技術政策	3	3	1
	防災社会システム	2	2	2
巨大災害研究センター	巨大災害過程	1	1	0
	災害情報システム	0	1	3
	災害リスクマネジメント	1	0	2
地震災害研究部門	強震動	0	1	1
	耐震基礎	3	4	2
	構造物震害	1	1	3
地震防災研究部門	耐震機構	3	4	4
	地震テクトニクス	0	3	1
	地震発生機構	2	0	3
地震予知研究センター	(6領域合計)	8	4	2
火山活動研究センター	火山噴火予知	1	0	0
地盤災害研究部門	地盤防災解析	1	4	3
	山地災害環境	3	1	4
	傾斜地保全	1	2	1
斜面災害研究センター	(2領域合計)	2	2	2
気象・水象災害研究部門	災害気候	2	2	5
	暴風雨・気象環境	3	2	4
	耐風構造	2	1	1
	沿岸災害	2	3	1
	水文気象災害	0	3	2
流域災害研究センター	流砂災害	2	3	1
	河川防災システム	0	1	1
	都市耐水	1	0	2
	沿岸域土砂環境	2	0	1
	流域圏観測	1	2	2
水資源環境研究センター	地球水動態	4	3	2
	地域水環境システム	4	1	3
	社会・生態環境	1	0	1
合 計		59	58	63

表 5.2.7 過去3年間就職先

1：研究職（大学，国研，独法，企業など）	11
2：研究職以外の職種	141
3：進学	23
4：その他	5

5.3 学部教育

防災研究所の教員は、本学の理学部、工学部総合人間学部における専門科目、および全学共通開講科目の一部を担当している。防災研教官の講義担当している学部専門科目およびで全学共通科目を、それぞれ表 5.3.1 および表 5.3.2 に示している。ただし、担当者は人事異動などにより幾分ずつは変化するが、講義科目自体は年によって大きな変化はないので、表は平成 20 年 4 月現在のものを用いている。

防災研究所教員には自然災害科学の専門家が多いことから、学部担当講義科目には、全体としては理学、工学部関係の科目が圧倒的に多い。

しかし、総合科学の防災学として、人文・社会科学系学部の学生にも自然災害の基礎知識を提供している。例えば、全学共通科目として提供している情報と社会、自然災害科学 I, II, 環境地圏科学ゼミナール I, II などの科目である。これらの科目は防災研究所の研究内容を講義を通じて学生の基礎教育に反映させる貴重な機会であると考えられる。

平成 13 年度からは全学共通の少人数ゼミ形式をとるポケットゼミが開講され、防災研究所として、「地震・雷・火事・親父の傾向と対策」、「自然環境観測実験体験ゼミ」、「流域生態環境ゼミナール」、などの講義を提供している。今後も魅力的な講義を継続していくことが望まれる。

防災研究所の教員が他大学等で平成 17～19 年度非常勤講師として講義を担当した講義は表 5.3.3 の通りである。

卒業論文の研究指導に関して、防災研究所の教員に指導を受け、学士の学位を授与された件数を表 5.3.4 に示す。

表 5.3.1 学部担当講義科目一覧

【社会防災研究部門】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
田中哮義・教授	工学部・建築学科	建築環境工学 I	2 学年・前期
		建築環境工学演習	4 学年・前期
		建築安全設計	4 学年・前期
實 馨・教授	工学部・地球工学科	水文学基礎	3 学年・前期
佐山敬洋・助教	工学部・地球工学科	水理実験	3 学年・前期
多々納裕一・教授	工学部・地球工学科	公共経済学	3 学年・前期
		計画システム分析	2 学年・前期
畑山満則・准教授	総合人間学部	自然災害科学Ⅱ	1 学年・後期
	工学部・地球工学科	測量学及び実習	3 学年・前期
		空間情報学	3 学年・後期
【巨大災害研究センター】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
河田恵昭・教授 林春男・教授 矢守克也・准教授 牧紀男・准教授	工学部・地球工学科 (土木コース)	地球防災工学	4 学年・前期
岡田憲夫・教授	総合人間学部	ポケットゼミ「地球コミュニティ時代の戦略的思考法」	1 学年・前期
	工学部・地球工学科	社会システム計画論	3 学年・前期
【地震災害研究部門】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
高橋良和・准教授	工学部・地球工学科	構造力学 I 及び演習	2 学年・後期
澤田純男・教授 後藤浩之・助教	工学部・地球工学科	土質実験及び演習	3 学年・前期
田中仁史・教授	工学部・建築学科	鉄筋コンクリートⅡ	3 学年・後期
岩田知孝・教授	理学部	地球惑星科学課題演習 D3	3 学年・後期
澤田純男・教授 高橋良和・准教授	工学部・地球工学科	耐震・耐風・設計論	3 学年・後期
高橋良和・准教授 後藤浩之・助教	工学部・地球工学科	構造実験・解析演習	3 学年・後期
田村修次・准教授	工学部・建築学科	建築基礎構造	4 学年・前期
高橋良和・准教授	工学部・地球工学科	材料実験	4 学年・前期
【地震防災研究部門】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
宮澤理穂・助教	理学部	課題演習 D C	3 学年以上・後期
MORI, James Jiro・教授	理学部	地震学Ⅱ	4 学年・前期
中島正愛・教授	工学部・建築学科	鉄骨構造Ⅱ	3 学年・後期
【火山活動研究センター】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
石原和弘・教授 井口正人・准教授	理学部・地球惑星科学専攻	火山物理学 2	4 学年

【地盤災害研究部門】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
諏訪浩・准教授	理学部・地球物理学科	陸水学	4 学年・前期
三村衛・准教授	工学部・地球工学科	土質力学Ⅰ及び演習	2 学年・後期
三村衛・准教授	工学部・地球工学科	土質実験	3 学年・前期
飛田哲男・助教			
井合進・教授	工学部・地球工学科	土質力学Ⅱ及び演習	3 学年・前期
		地盤環境工学	3 学年・後期
【斜面災害研究センター】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
福岡 浩・准教授	理学部・地球物理学科	課題演習 D3	3 学年・後期
【気象・水象災害研究部門】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
石川裕彦・教授	理学部	地球惑星科学課題演習	3 学年・後期
河井宏允・教授	工学部・建築学科	建築工学概論	1 学年・後期
		建築構造解析	3 学年・前期
河井宏允・教授	工学部・建築学科	耐風構造	4 学年・前期
丸山 敬・准教授			
森 信人・准教授 安田誠宏・助教	工学部・地球工学科	水理実験	3 学年・前期
中北英一・教授	工学部・地球工学科	確率統計解析及演習	2 学年・前期
		水理水工学	3 学年・前期
【流域災害研究センター】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
米山 望・准教授	工学部・地球工学科	水理学及び演習	2 学年・後期
川池健司・准教授			
川池健司・准教授 竹林洋史・准教授 馬場康之・助教 張 浩・助教 東 良慶・助教	工学部・地球工学科	水理実験	3 学年・前期
関口秀雄・教授	工学部・地球工学科	土質力学Ⅱ及び演習	3 学年・前期
林 泰一・准教授	理学部・地球物理学科	課題演習 D6	3 学年・後期
【水資源環境研究センター】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
小尻利治・教授 堀 智晴・教授	工学部・地球工学科	水資源工学	3 学年・後期
萩原良巳・教授	工学部・地球工学科	社会システム計画論	3 学年・前期
堀 智晴・教授	工学部・地球工学科	確率統計解析及び演習（T4 クラス）	2 学年・前期
浜口俊雄・助教 野原大督・助教	工学部・地球工学科	水理実験	3 学年・前期
竹門康弘・准教授	工学部・地球工学科	河川工学	3 学年・後期
小尻利治・教授 田中賢治・准教授 浜口俊雄・助教 堀 智晴・教授 萩原良巳・教授 竹門康弘・准教授	工学部・地球工学科	地球工学総論	1 学年・前期

表 5.3.2 全学共通科目一覧

全学共通科目名	講義担当		対象学年・学期
	部 門	担当者	
社会情報システム	社会防災研究部門	畑山満則・准教授	1 学年・前期
リスクにどう立ち向かうのか ―組織の危機管理入門―	巨大災害研究センター	林春男・教授 牧紀男・准教授 河田恵昭・教授 矢守克也・准教授	全学年・後期
復興から学ぶ 21 世紀の防災と環境	巨大災害研究センター	林春男・教授 牧紀男・准教授	全学年・集中講義
防災学概論	巨大災害研究センター	牧紀男・准教授	1 学年・後期
	地震災害研究部門	田村修次・准教授	
	気象・水象災害研究部門	丸山 敬・准教授	
自然災害科学 I	地震災害研究部門	高橋良和・准教授	全学年・前期
	地震予知研究センター	飯尾能久・教授	
	気象・水象災害研究部門	石川裕彦・教授	
自然災害科学 II	気象・水象災害研究部門	中北英一・教授	全学年・後期
	流域災害研究センター	米山 望・准教授	
ポケットゼミ 「地震予知と地震防災」	地震防災研究部門	MORI, James Jiro・教授 宮澤理稔・助教	1 学年・前期
	地震予知研究センター	柳谷俊・准教授	
地球科学実験 A	地震防災研究部門	宮澤理稔・助教	学部・前期
地球科学実験 B	地震防災研究部門	吉村令慧・助教	学部・後期
環境地圏科学ゼミナール I・II	斜面災害研究センター	釜井俊孝・教授 福岡 浩・准教授 汪 堯武・助教 王 功輝・助教	1~4 学年
環境学	気象・水象災害研究部門	向川 均・教授	1 学年・前期
入門海岸海洋工学	気象・水象災害研究部門	間瀬 肇・教授 森 信人・准教授 安田誠宏・助教	1 学年・前期
ポケットゼミ 「地震雷火事親父の傾向と対策」	社会防災研究部門	田中哮義・教授	1 学年・前期
	地震災害研究部門	部門教授・准教授全員	
	気象・水象災害研究部門	河井宏允・教授 丸山 敬・准教授	
ポケットゼミ 「地震予知と地震防災」	地震防災研究部門	MORI, James Jiro・教授 宮澤理稔・助教	1 学年・前期
	地震予知研究センター	柳谷俊・准教授	
ポケットゼミ 「山地流域で学ぶ自然環境のしくみと防災」	流域災害研究センター	藤田正治・教授 堤 大三・准教授	1 学年・前期
ポケットゼミ 「空を観る, 海を観る, 川を観る」	流域災害研究センター	林 泰一・准教授 武藤裕則・准教授 芹澤重厚・助教	1 学年・前期集中
ポケットゼミ 「京の水資源」	水資源環境研究センター	センター教員全員	1 学年・前期

表 5.3.3 他大学での学部担当講義科目一覧

分野・領域	氏名・職	大学名	学部名	年度	講義科目名
災害情報システム	林 春男・教授	大阪大学	工学研究科	17	
		甲南大学		17	防災心理学
		富士常葉大学	防災環境学部	17-19	防災教育/巨大災害論
		新潟大学	災害復興科学センター	18-19	
巨大災害過程	河田恵昭・教授	関西大学	工学部	17-19	地球防災工学
	矢守克也・助教授	奈良教育大学	教育学部	17, 18	社会心理学
強震動	松波孝治・准教授	大阪教育大学	教育学部	17, 19	地学特論
		大阪大学	大学教育実践センター	17-19	自然科学実験Ⅰ地学
地球計測	森井 互・助教	大阪大学	工学部	19	地球科学A
火山噴火予知	井口正人・准教授	鹿児島大学	全学	18,19	鹿児島の自然と災害
山地災害	千木良雅弘・教授	愛媛大学	3, 4年次	17	災害地質学
	諏訪 浩・准教授	大阪大学	共通教育機構	17	自然災害の科学
		奈良女子大学	理学部	17-19	地球科学2
地盤防災解析	三村 衛・准教授	立命館大学	理工学部	19	防災工学
傾斜地保全	釜井俊孝・教授	関西大学		17	地球科学(地球ダイナミクス)
		関西大学		17-19	環境地盤工学
地すべりダイナミクス	釜井俊孝・教授	関西大学	都市工学部	17-19	環境地盤工学
沿岸災害	安田誠宏・助手	愛知県立大学	情報科学部	17, 19	環境シミュレーション (分担)
水文気象災害	中北英一・教授	信州大学	土木工学科	18	環境水文学の1回分
	城戸由能・准教授	鳥取大学	工学部	17-19	廃棄物・環境管理
流砂災害	藤田正治・教授	立命館大学	理工学部	17-19	基礎演習Ⅰ
気象学	林 泰一・准教授	高知大学	理学部	17	気象災害の発生について
河川防災システム	馬場康之・助教	摂南大学	工学部	17-19	環境工学実験
				19	水理学Ⅰ演習

表 5.3.4 卒業生数

部門・センター名	領域・分野名	17年度	18年度	19年度
社会防災研究部門	都市空間安全制御	3	1	2
	都市防災計画	3	3	3
	防災技術政策	1	2	1
	防災社会システム	1	2	1
巨大災害研究センター	巨大災害過程	1	2	3
	災害情報システム	0	1	1
	災害リスクマネジメント	0	2	2
地震災害研究部門	強震動	1	0	0
	耐震基礎	2	1	3
	構造物震害	3	4	1
地震防災研究部門	耐震機構	4	2	1
	地震テクトニクス	0	0	0
	地震発生機構	1	0	0
地震予知研究センター	(6領域合計)	0	0	0
火山活動研究センター	火山噴火予知	0	0	0
地盤災害研究部門	地盤防災解析	0	0	0
	山地災害環境	0	0	0
	傾斜地保全	0	0	0
斜面災害研究センター	(2領域合計)	0	0	0
気象・水象災害研究部門	災害気候	0	0	0
	暴風雨・気象環境	0	0	0
	耐風構造	2	1	0
	沿岸災害	3	2	2
	水文気象災害	2	2	2
流域災害研究センター	流砂災害	0	1	1
	河川防災システム	2	3	3
	都市耐水	3	2	1
	沿岸域土砂環境	1	2	0
	流域圏観測	0	0	0
水資源環境研究センター	地球水動態	2	1	2
	地域水環境システム	3	2	2
	社会・生態環境	0	1	2
合 計		38	37	33

5.4 社会人教育

防災研究所における社会人教育としては、社会人学生として大学院に入学した学生の研究指導を行う場合と、研究生あるいは研修員等として受け入れる場合がある。

社会人学生とは、大学院博士課程を対象とし、各種教育・研究機関や企業等に在職しているものが、大学院在籍中も引き続きその身分を保有しつつ博士論文の研究指導を受けるものである。社会人学生として防災研究所の教員に研究指導を受けている学生数は表 5.2.3 に示すように、前回の 14～16 年度と比較して大幅に増加している。

社会人博士は身分を保証されながら研究が継続でき、学位修得できる点で、学生にとっては非常に魅力のある制度と考えられる。防災研究所にとっても、実務経験を有する人材に対する研究指導を通じて、自然災害科学に対する総合的な見識と技能を高めることが出来るなら、社会の要請に応えることでもあり、その意義は高い。大学院入学試験時に社会人別途専攻枠を設けている研究科・専攻もあり、今後同様な制度の拡充・活用が必要と考えられる。

一方、研究生および研修員の受け入れは社会人教育のシステムとして全学的に実施されているものである。但し、研究生、研修員の中には、いわゆるオーバー・ドクターや博士・修士課程退学者も含まれており、制度本来の趣旨に則った活用が十分にされているとはいえない状況もある。表 5.4.1 に示すように、H17, 18 年度においては、研究生の受け入れが、前回自己点検時に比較して飛躍的に増加した。しかし、H19 には一転して激減し、前回に比較してもほぼ半減してしまっている。この原因は不明である。

平成 16 年度には独立行政法人化されたが、社会人教育は防災研究所の主要な活動の一つとなるべきものと考えられるので、これに備えた制度の整備、広報活動を引き続き行っていく必要がある。

上記のような、研究所内での社会人教育とそれを支える制度の整備に加えて、一般を対象とした講義・講演等も広義には社会人教育の範疇に分類される。防災研究所主催の一般向け教育活動としては、

公開講座や年次学術講演会等があげられるが、これらについての詳細は、6 章「社会貢献」を参照されたい。

地域や学校などを対象とし、小・中・高校などの学習、教員研修もを実施している。平成 17～19 年度において、防災研究所教員は表 5.4.2 のように 20 例強行っている。

また、平成 15 年 1 月からは 21 世紀 COE の拠点形成プログラムに防災研究所のプロジェクトが採用されたことに伴い、この機関には、京都大学防災研究所フォーラムを京都および東京で定期的で開催し、一般を対象とした講義が所員 1 人当り年 2 回程度行われた。

表 5.4.1 研究生・受託研究員・研修員の受入数

グループ名	部門・センター名	H17		H18		H19	
		研究生	研修員	研究生	研修員	研究生	研修員
総合防災	社会防災研究部門	4		4			
	巨大災害研究センター	5		5		1	
地震・火山	地震災害研究部門	2	1		1		
	地震防災研究部門	1		1		1	
	地震予知研究センター			1			
	火山活動研究センター						
地盤研究	地盤災害	2		1		1	
	斜面災害研究センター	4					
大気・水研究	気象・水象災害研究部門		1	1	1		1
	流域災害研究センター	1					
	水資源環境研究センター	1		2			
合 計		20	2	15	2	3	1

表 5.4.2 総合学習・教員研修担当一覧（小・中・高校など）

小・中・高校等における総合学習・教員研修等の講師・授業等（平成17～19）

分野・領域	氏名	職	学校名	年度	講義名称
災害情報システム	林 春男	教授	兵庫県立舞子高等学校	17-19	防災学とは
海溝型地震	澁谷拓郎	准教授	鳥取養護学校	17	初任者研究（防災教育）
			中ノ郷中学	17-19	職場体験学習
	橋本 学	教授	滋賀県立膳所高等学校	18-19	高大連携授業
			私立灘高等学校	19	土曜講座
地殻活動	川崎一朗	教授	滋賀県立彦根東高等学校	19	S S H講演会
			鹿児島県立錦江湾高等学校	17	桜島のマグマの動きを捉える
火山噴火予知	井口正人	准教授	鹿児島県立錦江湾高等学校	17	桜島のマグマの動きを捉える
	為栗 健	助教	鹿児島県立桜州小学校	18	最近の桜島の活動と防災について
地すべり ダイナミクス	釜井俊孝	教授	三嶋高校	17	古墳が語る災害
			木幡中学	19	地震とその被害
災害気候	向川 均	教授	滋賀県教員研修	18	サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト滋賀県教員研修「最先端の天気予報技術，気候変動と気象災害 第1回天気予報の背景
				18	サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト滋賀県教員研修「最先端の天気予報技術，気候変動と気象災害 第2回天気予報の実際と予測可能性，気象情報の利用と解析
			大阪シニア自然大学	19	異常気象と地球温暖化
水文気象災害	中北英一	教授	伏見工業高校	18	連続講座「土木技術セミナー」の1回分
暴風雨気象環境	石川裕彦	教授	滋賀県教育委員会	18	サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト

河川防災システム	中川 一	教授	京都府立桃山高校	17	サイエンスパートナーシッププログラム
				18-19	サイエンスパートナーシッププロジェクト
			京都府立消防学校	17-18	土砂災害 ―発生メカニズムと対策―
			人と防災未来センター	18-19	災害をもたらす自然現象の理解 (風水害)
都市耐水	戸田圭一	教授	西日本私立小学校連合会社会科部会	17	都市水害に関する実験見学
			日本学術振興会ひらめき☆ときめきサイエンス	19	地下浸水時の怖さを体験しよう
流域圏観測	堤 大三	准教授	本郷小学校	19	砂防学習：焼岳登山
			静岡北高校	19	飛騨市 SSH：土砂災害の研究
	林 泰一	准教授	NPO 法人京都自由大学	19	竜巻のナゾを解く
社会・生態環境	竹門康弘	非常勤講師	京都府立東陵高校	17	応用生態学

5.5 外国人教育

防災研究所で受け入れている大学院学生のうち、外国人学生の数は、平成 17~19 年度では、表 5.2.3 および表 5.2.4 に示すとおりである。

平成 14 年度において、英語を母国語とする外国人教授が 2 名採用されており、外国人のみならず日本人向けの英語による授業担当および指導の機会が増えている。ただし、英語による教育の機会は少ないといわざるを得ないので、改善の努力が必要であろう。

外国人学生の出身国は、表 5.5.1 の通りである。世界各地から留学生を受け入れており、防災研究の国際的拠点としての役割を果たしている。特に、インドネシア、韓国、中国といったアジアの国からは毎年複数の留学生を受け入れており、アジア諸国への防災技術移転の機能を有している。

外国人留学生の受け入れに際しては、依然として指導教員の負担も大きいものがあり、留学生のうち特に私費留学生特有な不安定な身分をサポートするシステムの構築も進めねばならない。

防災研究所の教員が、JICA 研修や海外の大学・研究所等で外国人を対象として行った（国際学会・会議での発表は除く）講演・講義は表 5.5.2 に示すとおりである。

防災研究所教員が海外の大学において学位論文審査に携わった例は表 5.5.3 に示した通りである。

以上、外国人教育に関しては着実に実績を示しているが、留学生を始として、対象は殆ど発展途上国に限定されていると言える。これは、一面には災害の多発する国の多くが途上国であること、また一面では先進国では自力で防災研究・技術を構築できることが理由と考えられる。しかし、災害の様相や防災のための社会的・制度的基盤は国毎に異なるので、防災研究先進国とはいっても日本での知見や技術をそのまま講義・教育するだけでは有効でない面もある。国内に対する防災教育についても必ずしも十分と言えない中で、外国人教育にどれだけのリソースを割くか、バランスの取り方が難しい問題である。

なお、表 5.5.4 に、留学生の受け入れ状況を示す。

平成 17~19 年度の留学生の総数は前回の平成 14~16 に比較して 15%ほどの増加であるが、顕著な変化は、国費留学生がまだ相当な数を保っているものの、私費留学生が激増している点である。理由は定かではないが、留学生にとっての研究のための経済環境が改善されていると思われる。

表 5.5.1 外国人学生の出身国 (大学院生分)

グループ名	部門・センター名	年度	留学生の出身国																		合計							
			中国	韓国	台湾	インドネシア	フィリピン	ベトナム	マレーシア	ミャンマー	スリランカ	バングラデシュ	ネパール	インド	イラン	エジプト	ナイジェリア	エチオピア	オーストラリア	スロバキア		ブルガリア	連合王国	ロシア	ポーランド	ブラジル	チリ	
総合防災	社会防災研究部門	H17	1	1	2																						6	
		H18	3	2	1	1	1																					9
		H19	3	1	1	1	1	1			1																	10
	巨大災害研究センター	H17	2										1											1				4
		H18	4	1								2											1					8
		H19	5	1	1	2						1	1															11
地震・火山	地震災害研究部門	H17	1											1													2	
		H18	1																									1
		H19	1																									1
	地震防災研究部門	H17	2	1																								3
		H18	1	1	1	1																						3
		H19	1		1	1	1																		1			4
	地震予知研究センター	H17	1																									1
		H18	1																									1
		H19																										
火山活動研究センター	H17																										3	
	H18																										2	
	H19																										2	

地盤研究	地盤災害研究部門	H17	1																				1			
		H18	1														1								4	
		H19		1												1									4	
地盤研究	斜面災害研究センター	H17																						3		
		H18																					1		3	
		H19																					1		2	
大気・水研究	気象・水象災害研究部門	H17																						2		
		H18		1																					2	
		H19		1																					1	
	大気・水研究	流域災害研究センター	H17		1																				6	
			H18		1																					6
			H19		1																			2		7
	大気・水研究	水資源環境研究センター	H17																						3	
			H18																							2
			H19																					1		5

表 5.5.2 外国人研究者向け講義一覧

(1) 海外の大学等における講義等 (平成 17-19 年度)

分野・領域	氏名	職	大学等名称	国名	年度	講義等名称
地殻活動	徐 培亮	助教	Tampere 工科大学	Finland	19	Nonlinear Robust Estimation
火山噴火予知	井口正人	准教授	Brawijaya 大学	インドネシア	17	Study on eruption mechanism and prediction of eruption at Guntur and Semeru volcanoes in Indonesia
山地災害	千木良雅弘	教授	西南交通大学	中国	19	特別講義
計測領域	王 功輝	助教	蘭州大学	中国	18	地震により発生したレス地域の地すべりについて
			香港大学	中国	19	高速地すべりのメカニズムに関する研究
			西南交通大学	中国	19	高速地すべりにおける水の役割
地すべりダイナミクス	福岡 浩	准教授	ソウル大学	大韓民国	19	地すべりダイナミクス
			国立森林科学研究所	大韓民国	19	地すべりダイナミクス
			国土地理院	エルサルバドル	19	地すべりのメカニズムと監視
	汪 発武	助教	中国科学院大学院	中国	19	高速運動地すべりの発生・運動機構
			フロレンス大学	イタリア	18	地震・降雨による高速運動地すべり
			屏東科技大学	中華台北	18	地すべりダイナミクス：機構と予測
河川防災システム	中川 一	教授	仁済大学	韓国	17	日本の自然災害と防災
流砂災害	藤田正治	助教	ガジャマダ大学大学院	インドネシア	17	洪水および土砂流出制御システムおよび総合的土砂管理
		教授	ガジャマダ大学工学部	インドネシア	18	土砂水理学
気象学	林 泰一	准教授	インド工科大学デリー校	インド共和国	17	Precipitation in the northeastern Indian Subcontinent
			インド科学大学バンガロール校	インド共和国	17	Precipitation in the northeastern Indian Subcontinent
			チュラロンコン大学	タイ王国	17	Introduction to the atmospheric boundary layer
			バングラデシュ工科大学	バングラデシュ	18	Present research and future prospect of the meteorological disasters in Bangladesh
			バングラデシュ気象局	バングラデシュ	18	Precipitation pattern in Bangladesh

(2) 国内における外国人研究者向け講義 (JICA 研修等) (平成 17-19 年度)

分野・領域	氏名	職	研修等名称	年度	講義等名称
災害情報システム	林 春男	教授	東・東南アジア地域別研修	17-19	洪水ハザードマップ作成
巨大災害過程	河田恵昭	教授	JICA 国際研修	17-19	我が国の災害と防災
災害リスクマネジメント	岡田憲夫	教授	JICA 地域別研修「都市計画・土地区画整理事業」コース	17,18,19	「リスクマネジメント」について
巨大災害過程	矢守克也	助教	JICA 中南米研修	18	地域住民の防災力の向上
地殻活動	川崎一朗	教授	JICA アンデス災害医療マネジメント研修	17	地震
地殻活動	徐 培亮	助教	JICA 研修	17,19	Seismological and Geodetic Observation
火山噴火予知	井口正人	准教授	火山学および総合土砂対策	17,18,19	桜島の火山災害
暴風雨気象環境	石川裕彦	教授	日中気象災害協力研究センタープロジェクト 2007 年度本邦研修	18	広域フラックス算定手法の開発
				18	乱流フラックス算定と風・気温鉛直分布観測
				19	大気境界層・ウインドプロファイラ観測
河川防災システム	中川 一	教授	JICA 個別研修	17-18	Current Situation of Flood Disasters in Japan
	馬場康之	助教	JICA 気象研修	17-19	研修概要および実験施設紹介

流砂災害	藤田正治	教授	JICA 火山学・総合土砂災害 対策コース研修	17-19	土砂水理学
流域圏観測	林 泰一	准教授	JICA 気象研修	17,18,19	大気境界層の構造と観測

表 5.5.3 海外の大学における学位論文審査担当一覧

分野・領域	氏名・職	大学名 (国名)	研究科名	年度	論文目名
都市防災計画	田中哮義・教授	Hong Kong Polytechnic (香港)	Building Service Engineering	19	Aspects on Fire Safety for the Retail Areas at the Airport Terminal in HK
海溝型地震	澁谷拓郎・准教授	オーストラリア国立大学 (オーストラリア)	地球科学	18	Seismic Receiver and Noise Correlation Based Studies in Australia by Erdinc Saygin
地盤防災解析	三村 衛・准教授	National University of Singapore (シンガポール)	Faculty of Engineering	19	Modelling and Analysis of Riser-seabed Interaction
流域圏観測	林 泰一・准教授	ガウハチ大学地理学科 (インド共和国)	地理学教室	19	Flood and Erosion Problems in Darrang District, Assam: Fluvio-Geomorphological Study
地域水環境システム	小尻利治・教授	Indian Institute of Technology Bombay, India		18	Application of Optimization Techniques to Estimate Flow and Solute Transport Parameters in Groundwater System

表 5.5.4 留学生の受け入れ (単位 : 人)

	H17	H18	H19	合計 (グロス) / 平均
国 費	25	28	29	82 / 27.3
私 費	9	13	18	40 / 13.3
政府派遣	0	0	0	0 / 0
合 計	34	41	47	122 / 40.7